



「細雪」の衣裳を参考に創作。古風な感覚を残した訪問着兼小振袖です。合わせた袋帯は銀糸の佐賀錦。黄味の帯あげで表地のブルーが生き、ピンクの帯メで華やかになります。鶴の頭はびっしり深紅の相良刺繍が施されています。



本場結城紬 無地 (地機) を織る。

織り上がった品からお気に入りを探すこともできますが、自分に似合う色目がはっきりと浮かんでくれば、憧れの「本場結城紬 無地」を自分色で織るという道も…。何万通りの織り色の中から選ぶ醍醐味。上の写真は、経糸を桜色で、緯糸を淡い象牙色で染め、地機で織られた無地。背紋は手刺繍で、笹蔓(ささづる)文へ。結城は、真綿のモフモフが絡まるまで着倒して欲しい。

紡ぐ人、染める人、織る人、着る人、すべてを繋ぐ仕事。あなた色で本場結城紬を織る。烏梅染も草木染も糸染の選択肢。名もなき職人達の手仕事をこれからも繋いで行く。

(注)裏面もあります。



原料の袋真綿 (ふくろまわた)



福寿草 (元日草)

あつら 誂えは、自由自在。

地色も柄付もご要望があれば、白生地地の地紋(柄)や生地幅まで自由に選び「創作」することができます。当店を訪れるお客様にこのような創作手順を説明すると、「着物ってこうして創られるんですね」といつも驚かれます。

江戸・明治・大正・昭和初期までの呉服屋は『お誂え(着物創作)』に精通していました。『お誂え』とは、お客様と膝を交えて話し合い、信頼の上で成立するシステムでした。当店では、着物サンプルや地色など数多く取り揃えております。染め上がりのイメージを思い浮かべていただき、後は任せていただくやり方が主流です。



誂え振袖の修正図案。「御所車を入れて欲しい」というご要望にとことん応え、下準備を何より大切にしています。

母の勇断、すれ創りあげるなら……

■お母様は、「お気に入りのお晴着を着て欲しい」とそれぞれに「用意される決心」をされました。
(お母様は「アンティークタイプ」の一式を……)
■姉には、「洗練された振袖兼訪問着」一式を……。(結婚後、別荘の訪問着用の袖に行き着くと、お母様も着可)
■お姉さんのお気に入りには「品揃え」の中に、妹さんのトキメキは、「お誂え」の中に取りました。

■当店の最大の特徴は「絞り込まれた感覚の中」の「深品揃え」プラス「量」と「厚い人肌」による「誂え」です。
もし、品揃えが少なかったら……、もし「誂え」が出来なかったら……、振袖に対するトキメキも生まれなかったら……違ひありません。

■一時は、どうなる事かと思われた振袖選び、姉妹共に妥協する事なくハッピーエンドを迎えました。この先、ずっと思い出し「きもの」として、二人に……いや、ご家族全員に、きっと「豊かな時間」をもたらしたいです。

文責 きものや店主 川原優希



桜と菊をデザインした、アンティークタイプのかわい「着物」一式。



振袖や訪問着の範疇を超える上品さは、正に「晴着」。喜びの証はこの笑顔。袋帯はお姉さんの象牙地の唐織を締めました。

ふくろうの筆メール

2018年初春 早春 蕾号 115号

(平成30年) 新春は、1/4(木)から営業致します。



「きもの」のある豊かな時間。

■お姉さんの成人式が迫って来た夏、姉(19歳)と高一の妹(15歳)と母の三人で来店されました。
当店には「今風の振袖はありますか。姉妹はそれを承知の上で、当店が品揃えする沢山の振袖をあれやこれやと試着。」
■姉は「アンティークカラー、妹はライトカラー」がお好みの方でした。二人の雰囲気が違うように、意見も好みもなかなか合いません。

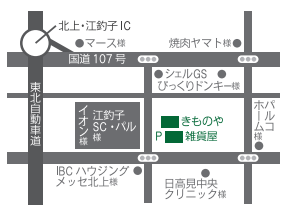


お姉さんとあれやこれやと試着中。だんだん感性が研ぎ澄まされて……

母親が二人を連れて来られた理由は、「二枚の振袖を姉と妹で着回して欲しい」というものだったので……。
■お姉さんのお気に入りには「品揃え」の中に有りませんでした。でも妹さんは中々納得いかない様子。妹に対して優しい姉は「あなたが好きは振袖を選んでいよ」と自分から好みの振袖を半ば諦めたように声をかけたのです。

創作という閃き。

■そんなやりとりを見ていた私(店主)は、ふと以前「注文でお創りした振袖兼訪問着を思い出した。お母さんでお領り中でした。そのお品をこの様に、シックで上品な大人感覚の振袖兼訪問着をお誂えされた方が、おられます」と妹さんにお勧めしたところ、「んんんが着たい」と誂えた着物にトキメキ始めたのです。
トキメいた着物も全く同じデザインで誂える訳にはいきません。その着物を持て主に事情を説明し許可を得た後、同じような雰囲気でお用意する事に……。(いらいら話には大きく動くことになりません)



「きもの」のある豊かな時間。

(■営業時間) ●きものや AM10:00-PM6:00
●雑貨屋 AM10:00-PM6:00
■定休日 毎週水曜日

Tel. 0197-64-5595 株式会社 上 庵
〒024-0072 北上市北鬼柳20の51の10





山陰「足立美術館」への旅。

●究極の美しさを保つ島根県「足立美術館」。入館から退館まで、私の心を驚嘆みにした。●創設者は足立全康（明治32年生）。71歳の時に島根県の文化発展への思いを込めて開設し、91歳でこの世を去るまで「来館するすべての人に感動を与える美術館にしたい」と謳い続けた。●5万坪に及ぶ敷地に日本庭園を配し、近代日本画を中心に約1500点を所蔵する。美しい庭園と名画・陶芸作品が調和する世界でも名高いスポット。なかでも横山大観のコレクション数は世界一。●名だたる画家たち最高峰の日本画を鑑賞していると、配色の美しさに息が止まる。●一方、窓枠が額縁、となる「生の額絵」から望む景色は、まるで淋派の屏風を想わせる。創設者の熱い想いが詰まった美術館だ。●広大な敷地にはチリひとつない。毎朝開館前に、職員全員で庭掃除を行う。どこを見ても気になるところが全くない完璧な空間だ。●北上に戻った私は、店のガラス磨きを始めた。足下にも及ばないが、「来店されるすべての人に感動を与えたい」と思いながら…。(川内俊秀)



お久しぶりです！ 店主の孫々情報

「あかね」大島明香音（13歳）
「わかな」大島和香菜（4月で10歳）
「ゆうのすけ」川内勇之介（4月で8歳）
「はな」平華花（6歳）
「はたる」川内蛍（5歳）
「ゆうと」大島結人（5歳）
「あきよし」平晶善（3歳）
便り

ゆうのすけ はたる ゆうと
パパに連れられて…。仲良し3人組。



ゆうと わかな あかね
キレイだったあ、仙台イルミネーション!!



「はら、ちゃんとうんばって!! 帯も持ってきて!!」
「ママは朝から大忙し!! 美容室の次は着付。」



はたる

注 表面も
あります。



はな
背には大きな夕日。孫 最年少も大きくなりました。

メリークリスマス!! 帰ってきたら
すぐ宿題。うーん、川内家らしからぬ…



あきよし



ゆうのすけ

「ジージ「今度、キャッチボールしようよ」
ゆうのすけ「出来るの? ポクの球捕れるの?」

とにかく朝からハイテンション!
着物を纏うと嬉しくなるのかな。
キチンとした写真、撮れませんでした。



背紋1ツ紋(抜き紋)。京都には、上品な日向紋(ひなたもん)を描く職人が居ます。



仕上り品の裾部分。万筋風の地紋です。

左は「手刺繍の袋帯」です。元々は京都にて偶然見つけたアンティークの丸帯でした。余りにも感度が高いので、復刻して現代の袋帯仕様にしました。この無地に良く合います。

たかが無地、されど無地。



烏梅(うばい)とは? ●中国伝来の烏梅は、「黒梅」または「焼き梅」と言われ、完全して落下した固い梅の実を煤で塗し燻したものだ。●日本では、平安時代には「烏梅丸」として妙薬に。また、室町時代には「梅染」と呼ばれ染料となっていた。京の都で着物や口紅の需要があった江戸時代、烏梅は米よりも高値で売られていたため、各地でござって作られていた。後に化学染料が普及し、生産は一気に廃れ、現在では奈良月ヶ瀬「中西家」一軒のみで作られている。●紅花の紅色(色素)抽出用として、特に重用された歴史を持つ。



地色選びは大きな生地で。そして自然光の中で選びます。

「何色が自分に合うか分からない」と多くの方が言われます。両肩を覆う程の大きな染め上がりサンプルを顔に当て、「自分にぴったりの地色を探す、失敗しない色選び」を開催しております。

もちろん当店は、常時、着物の染め出し、誂えも行っており、色見本帳サンプルは一万色以上揃えておます。例えば、A色とB色の中間色など、お好みに合わせて染元の職人さんが

通常の色無地では表現し難い日本の伝統色を、再現させるために色を三度引き染で重ね、さらに「烏梅」を引き、発色と深みを引き出すこだわりの染。

生地は長浜での別織オリジナル。従来の縮緬(ちりめん)は、緯糸の捻糸の変化とその組み合わせで織られていますが、この新しい生地は、緯糸の配列の工夫と経糸の収縮作用を利用して、今までにない細かい経シボが万筋の様な地紋の表情となり、地色の深みが増すと同時にシワになりにくく、復元力に富む万能の白生地として完成しました。

万葉烏梅染 無地を始めます。

発色と深みを引き出す
まんよう うばいぞめ

「四十八茶百鼠」の美意識。
江戸時代の後期、少しずつ生活が豊かになっていく中で、着るものに対して幕府は質素さを求め、「着物の色・生地・柄」に細かな規定を設けた。色は「茶」「鼠」「藍(御納戸色)」のみと限定されてしまった。他の人とは違う自分なりのお洒落を望む庶民たちの気持ちを汲み、染色の職人たちが色を重ね操り、次々と新しい日本独自の「色」を誕生させた。それが「四十八茶百鼠」。「四十八茶百鼠」の美意識を育む、万葉烏梅染。



合わせる袋帯によって表情は大きく変わります。お手持ちの袋帯をご持参下さい。

あなたに似合う色とは…

毎日、さまざまな衣服を身に着ける私たちに、必ずお気に入りの「色」があるものです。

でも、とても好きなのに「何となくしっくりこない」ことや、自分の好みではないけれど、知人に薦められた色を着てみたら周りから褒められたなど、そんな経験はありませんか? 人には、「肌の色」「顔立ち」「骨格」「体型」などの視覚的な要素と、「周囲から持たれているイメージ」という要素があります。

洋装の世界では一般的に、「馴染む色」からの色探し手法として、「色味」で色を分類する方法があります。肌の色から「ブルーアンダー トーン(青味を多く感じさせるクール感)」と「イエローアンダー トーン(黄味を感じさせるウォーム感)」の2つに分類する方法です(色味度)。(各アンダー トーンの色同士は調和するという理論。とても分かりやすく、説得力はありますが、馴染む色それだけで「似合う色」であるとの判断はできません) 着物は、顔の下から裾まで長方形で表面積が大きい分、その色目が似合うかどうかの差が洋装以上に歴然です。

鏡の前で、その色が似合っているかどうかの信号とは…

- 『肌にハリを感じる色』
- 『色が良く、明るく見える色』
- 『少し若く見える色』
- 『フェイスラインがスッキリ見える色』
- 『好きな色』と「馴染む色」と「似合う色」は違います。先入観を持たず、多くの色を顔に当ててみてください。あなたに「似合う色」はどんな色でしょう?!